

## 実施報告書

### 第 32 回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ ミキハウスカップ東京 2022

実行委員長 野村 泰造  
レース委員長 小野澤 秀典

#### はじめに

2022年5月29日（日）、第32回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウスカップ東京2022）を、諸事情から例年の東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所から、神奈川県立葉山港に変更して開催致しました。特別協賛を「株式会社ミキハウス様」に頂いて、スポーツ庁、外務省、公益財団法人日本セーリング連盟（以下 J S A F）の後援を頂きました。

初めての相模湾、神奈川県葉山港での開催という事で、NPO 法人神奈川県セーリング連盟(以下 KSAF という)の皆様と葉山新港で活動されている葉山町セーリング協会の指導者・保護者の皆様の絶大なご協力を頂いて無事に大会を開催出来ましたことに御礼申し上げます。

まだ新型コロナウイルス感染継続状況下ではありますが、日本全国でヨットを含めたあらゆるスポーツ大会がやっと随時開催され始めました。コロナ禍でもジュニアの為に出来る限り開催するという信念のもと J S A F、スポーツ庁の指導に沿った大会運営マニュアルに従って、JJYU、KSAF、葉山町セーリング協会の3者で入念に準備を行い、中止する事なく継続開催出来ました。

参加数は、昨年の13クラブ80艇（OP級初級者30艇、OP級上級者40艇、レーザー4.7 4艇、国際420級6艇）（選手87名）から13クラブ98艇（OP級初級者20艇、OP級上級者64艇、レーザー4.7 6艇、国際420級8艇）（選手106名）のエントリーがありました。クラブの指導者・保護者102名に運営役員・委員50名と総勢258名参加の大会となりました。

運営役員、スタッフは昨年同様に二週間前から健康に留意し、ソーシャルディスタンスを保ちながら、集合時間7時30分には、スマートフォンのLINEオープンチャットによるエントリー方式で参加受け付けと感染防止対策健康チェック項目の登録を行いました。

受付にて本年もクラブ毎に参加賞として例年よりグレードアップしたミキハウス様提供の記念品をお渡ししました。



神奈川県葉山港





クリスタルカップとメダル



ミキハウス社様からの賞品



多くの選手が集まりました



石原伸晃 JJYU 会長も、公務多忙のところ時間を割いて頂き、11:45 から 13:15 の間にレガッタ会場に来られて、体験試乗会の外国人の子供たちや、陸上にいた保護者の皆さんにご挨拶をされました。  
A 海面の運営役員は昼食時も海上に残っていたので、陸上にいた運営役員と昼食弁当を摂りながらお話をする時間が取れました。



石原会長と伊藤副会長



## 開会式

8時30分より開会式を行ないました。

開会式は伊藤雅宣 JJYU 副会長の開会のご挨拶から始めました。

続きまして株式会社ミキハウス様を代表して取締役社長室長の光川彰夫様より選手に対しまして力強い応援のお言葉を頂きました。

皆様のご協力により、マスク着用と密を避けての約10分程度の時間で滞ることなく執り行う事が出来ました。

開会式に引き続き B 海面は森田光一レース委員会副委員長のもとスキッパーズミーティングが手短に行われました。



開会式 葉山港管理事務所前で



伊藤雅宣副会長のご挨拶



株式会社ミキハウス光川取締役ご挨拶



B海面スキッパーズミーティング



出艇



## ヨット体験試乗会と国際親善

日本在住の外国の子供たちにミキハウスカップ東京のレースに参加して欲しいと願い、在日外国大使館、領事館、外国人学校、インターナショナルスクールに呼びかけていますが、ヨットレースに参加出来る子供たちはなかなか集まらない状況です。そこで、日本在住の外国の子供たちと家族に集まって頂いて、ヨットのセーリング体験をして貰い、ヨットに興味をもって貰おうという体験試乗会を毎年企画し、実施して来ました。

今年は、葉山町セーリング協会の保護者のご協力で Saint Maur International School、Yokohama International School、葉山小学校、立野小学校、本牧中学校に声をかけて頂いて、29名の子供たちと12名の保護者の方が来場されて、葉山ヨットクラブのメンバーの大型クルージングヨット4艇に分乗して、ミキハウスカップ東京のレースの観戦と応援、クルーザーによるセーリングを楽しんで頂くことが出来ました。

## 体験試乗会を楽しむ子供たち





## レース

当初の第1レース予告信号の9時30分頃から風がなく暫く陸上での風待ちとなり、予定通りのレース回数は出来ませんでした。OP級上級者クラス、レーザー4.7、国際420級は3レースで終了となったものの、OP初級者クラスは6レースを実施出来ました。

### OP級初級者クラス

風向220度で安定していましたが、風速2m/s未満が続き、選手の体力を考慮し陸上待機としました。A海面より一足早く10時00分にD旗を掲揚しました。220度3m/sの風、0.2マイルで上マークを葉山港のシンボル赤灯台付近に設定し、この防波堤から保護者の方々が観覧できる絶好のコースとなりました。

若洲ヨット訓練所のポンド内の海面では、20艇近くの艇数であれば3つのディビジョンに分けてのレース運営をせざるを得ませんでした。葉山港外側の海面では全艇が一緒に走れる環境でより公平なレースが出来ました。2レース目以降は190度に振れ風速も5m/sまで上がったので上マークを0.3マイルに伸ばした距離で行いましたが、6レースを通じて全艇がトップ艇フィニッシュ後5分間以内にフィニッシュ出来るという、とても素晴らしい選手たちのセーリングでした。

スタートも初級者クラスには珍しくゼネラルリコールやリコールがありましたが、リコール時は全艇がリコールを解消するレベルの高さでした。

時間の余裕もあったので陸で昼食を摂ることが出来、体力の回復が出来たおかげで、午前・午後ともに3レースが実施出来ました。午前のレースで成績が振るわなかった選手が午後には2着、3着をとるなど、今年もレースを通じて成長する姿に感動いたしました。

葉山町ヨット協会の指導者の方々の適切な運営で、滞りなく6レースができましたこと深く感謝申し上げます。



OP級初級者のスタート



上マークを目指して



上マークトップ 回航



上マーク回航前のデッドヒート





陸上から双眼鏡で応援

## OP 級上級者クラス

選手ブリーフィング終了後、レース海面に風がなく、風待ち陸上待機からのスタートになりました。

### 【第1レース】

10時過ぎから風が吹き始めたので、10時15分D旗を掲揚し陸上待機していた全艇が出艇し、レース海面に全艇が集合したことを確認し、SI通り国際420級、レーザー4.7、OP級上級者クラスの順でスタートしました。

国際420級、レーザー4.7：風軸185°、4~6knot、S~1：0.4マイルに設定し、OP上級者クラス：風軸185°、2~3m/s、S~1：0.3マイルの設定をしました。

A海面の全てのクラスで準備信号にU旗を使用しましたが、OP級上級者クラスの中にはスタート1分前にスタートラインを越えて、ラウンドして解除しようとした選手がおり、U旗ルールの理解がされていないようでした。また、潮の影響か、スタート直前にラインを超えUFDとなった選手が数人おりました。

真夏のような晴天の中、弱い風で30分~50分のレース時間で第1レースを実施しました。

### 【第2レース】

国際420級、レーザー4.7：風軸185°、4m/s、S~1：0.4マイルに設定し、OP級上級者クラス：風軸185°、4m/s、S~1：0.3マイルの設定をしました。

スタートは、国際420級、レーザー4.7はオールクリアでスタートを切ってゆきましたが、OP級上級者クラスは潮の影響もあり、最初のU旗でのスタートはゼネラルリコールとなり、2回目のスタートは黒色旗を使用しました。

全般的に午後になるにつれて風力が上がってくると想定していましたが、思ったほどシーブリーズが入らず、レーザー4.7はチャーリーを上げて、マーク間を短く設定し直しました。

時間的に、全クラス最終となる第3レースのスタートが出来るように、短めのコース設定としました。

### 【第3レース】

海上は気温が上がりすぎたこともあり、思ったように風力に上がってきませんでした。時間内に3レースをスタートさせるためには全クラスのスタートをオールクリアで完了するため、国際420級を13時50分にスタートし、レーザー4.7クラスを13時56分、OP級上級者は最初から黒色旗を準備信号で使ったので、14時02分にスタートしてゆきました。

今回も、コース設定は国際420級、レーザー4.7：風軸185°、4m/s、S~1：0.4マイル。OP級上級者クラス：風軸185°、4m/s、S~1：0.3マイルでした。



風力は一時的に 5~6m/s になる場面もありましたが、風の腰が弱く、総じて 4m/s の風でした。  
レース委員会信号艇（レース委員会京黒副委員長）の好判断もあり、全クラスとも 3 レースを終了することが出来ました。



曳航してレース海面へ



第1レースのスタート 遠くに富士山を望む



上マークへのタック



上位艇の上サイド



上位艇のサイドマーク回航





富士山を背景に、420級第1レースのスタート



下マーク



下マークアプローチでのジャイブ



回航



レーザー4.7のスタート





スタート直後

## 成績

### クラブ対抗レース

- 優勝 葉山町セーリング協会  
2位 江東区立小中学校セーリング部  
3位 横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ



クラブ対抗レース優勝クラブ 葉山町セーリング協会代表者

### OP 級初級者クラス

- |    |       |                   |
|----|-------|-------------------|
| 1位 | 上條 正弘 | 江東区立小中学校セーリング部    |
| 2位 | 田淵 勇帆 | 千葉ヨットビルダーズクラブジュニア |
| 3位 | 中田 琴海 | 江の島ヨットクラブジュニア     |
| 4位 | 和田 悠希 | 江東区立小中学校セーリング部    |
| 5位 | 中村 海翔 | 夢の島ヨットクラブ         |
| 6位 | 今井 晴也 | 葉山町セーリング協会        |





OP 級初級者上位入賞者

OP 級上級者クラス

- |    |       |               |
|----|-------|---------------|
| 1位 | 加原 弦季 | 江の島ヨットクラブジュニア |
| 2位 | 岩波 萌夏 | 江の島ヨットクラブジュニア |
| 3位 | 嘉手川湮帆 | 個人参加          |
| 4位 | 青山 侑友 | 葉山町セーリング協会    |
| 5位 | 岩永 将吾 | 江の島ヨットクラブジュニア |
| 6位 | 秋田 海斗 | 江の島ヨットクラブジュニア |



OP 級上級者上位入賞者



### レーザー4.7

- |            |                    |
|------------|--------------------|
| 1位 森居 昂太郎  | 江の島ヨットクラブジュニア      |
| 2位 中島 拓海   | 江の島ヨットクラブジュニア      |
| 3位 センコフ 優吾 | YMFS ジュニアヨットスクール葉山 |



レーザー4.7 上位入賞者

### 国際420級

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1位 西田 帆七/尾崎 健人   | 葉山町セーリング協会    |
| 2位 窪田 啓汰/重田 空希   | 江の島ヨットクラブジュニア |
| 3位 チャーチ 海/左近 麗咲子 | 葉山町セーリング協会    |



国際420級上位入賞者



## 懇親パーティー・表彰式

16：00 二年ぶりの懇親パーティー・表彰は予定より若干遅れの16：20より始めることが出来ました。ここ数年コロナ禍の中でのレガッタということで開催自体が危ぶまれましたが、最後まで気を抜かず、終日参加者全員マスク着用で安全対策を重視しつつ、滞りなくかつ適度の緊張の中で行われたことが良かったと思います。レース講評はレース委員長小野澤秀典 JJYU 理事から下記の通り頂きました。

「コロナ禍の中で練習も儘ならなかった時期もあったので練習不足だったと思います。今日1日を通して弱風域でのレースとなりました。心身ともに万全の準備でレースに臨むことが出来るかが良い結果を出すカギになったのではないかと感じました。選手の皆さんが更なるステップアップをし、来年のこの大会でお会いできることを期待しております。」

葉山町セーリング協会の保護者の方々のご尽力により個食提供頂いたパーティー仕様のフィンガーフードを味わいながら和やかな表彰式となりました。

皆様の協力により懇親パーティー・表彰式も、現状に配慮して、コンパクトかつスピーディーに進める事が出来ました。



表彰式前 懇親会食事を味わいながら歓談中



OP 級上級者優勝者にカップを渡すミキハウス光川取締役





小野澤秀典レース委員長による成績発表



閉会の挨拶

### 【医療救護委員からの報告】

医療救護委員会としては、前回はクラブごとに纏めて感染防止対策健康チェックシートを提出して頂いたが、今年の大会では、選手はもとより指導者・保護者、運営役員各個人の感染防止対策健康チェック項目を、スマホのLINE利用で登録・管理にして頂いた為、より安全に管理する事が出来ました。

5月末には珍しい32℃となる急激な気温上昇予想で、熱中症等心配されましたので、開会式には飲み物と帽子の必要性と会場・海上等でのマスクの取扱いについても説明しました。レース中に鼻血が出た選手もいましたが熱中症になる選手もなく、無事に終了することが出来ました。これは、選手全員が帽子の着用、積極的な飲水を行った結果だと思われます。また、飲食前に積極的に手指のアルコール消毒を実施した事により新型コロナ予防対策にもなったと考えられます。

### 最後に

毎年特別協賛を頂いている三起商行株式会社（ミキハウス）様、協力を頂いた各団体、企業の皆様とNPO法人神奈川県セーリング連盟、神奈川県立葉山港のスタッフの皆様、葉山町セーリング協会の指導者・保護者の皆様のご協力に改めて感謝と御礼を申し上げます。

以上